



“三方よし”の職場づくり

第10回

市内横断の若手職員チームで “仕事を変える”動きをつくり出す

高島市役所では、2014年度から政策形成研修を実施している。これは、本市が人材育成基本方針の目指すべき職員像として掲げる「豊かな感性を持って、自ら考え行動する自律型職員」を育成することを目的に、福井正明市長の発案で始まった市独自の研修である。市内公募制により結成した市内横断の若手職員チームが、市の課題について研究し、市長を含む幹部職員に政策提案を行うスキームになっている。

この研修は、テーマの設定や進め方、提案内容の反映について毎年改善を重ね、参加する職員の育成レベルもアップさせている。14年度は、市長から与えられた「新旭風車村の活性化案」という課題に対して3チームで具体的な提案を作成した。15年度は「業務改善」をテーマに、各部署が抱えている課題について、2チームで問題の洗い出しから課題の設定を行い、「業務改善運動“スリムやん運動”」と「統合型電子決裁システムの導入」を提案した。両案は、その後市内で実際に取り組まれることになった。16年度は、課題を与えられるのではなく、各チームが自ら市の課題を考え、主体的に提案を行う形とした。その結果、情報発信の活性化に着眼した「シティプロモーション

で高島発信」と、業務の基盤づくりに着眼した「業務手順書の作成」が提案され、後者は、現在全職員が各年度末に自らの業務に関する「業務手順書」を作成する仕組みとして実施されている。

2017年度からは、従来の形から、政策研究チーム「TMT (Takashima Management Team)」に再編し、より客観的かつ俯瞰的に市の行政経営の課題を発見・考察する力を高めることで、よりよい課題解決策を立案できるようなスキームとした。私もTMTのメンバーとして自治体改善マネジメント研究会に参加し、高島市の行政経営の本質的課題と解決策について研究し提案を行った。

今年度は、管理職員の組織マネジメント力の向上にも着眼し、課長級職員を中心に公募によるメンバーで「Σ(シグマ)塾」を立ち上げ、若手職員と2階層で高島市役所の“仕事を変える”動きを作り出そうとしている。

この研修には、自ら手を挙げ参加した職員がモチベーションと能力を高め、チームで仕事を変える実績をつくる効果がある。今後は、ここから周りの職員や職場にいかに影響を広げていけるかが鍵となるだろう。

(滋賀県高島市総務部人事課/梅村 淳)

※本コラムは「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーがリレー形式で執筆します。

0人)は、婚姻届提出時・母

保 妊婦に葉酸関連
商品を贈呈

●青木村総務企画課
0268-490111

千曲バスには荷物を運ぶ分の手数料が入り、同村が路線維持のために支払っていた負担金の減少も見込まれている。

千曲バスには荷物を運ぶ分の手数料が入り、同村が路線維持のために支払っていた負担金の減少も見込まれている。

上田市と青木村を結ぶ路線バスで実施するもので、上田市の下秋和車庫を12時と16時に出発する千曲バスに宅急便を積み込み、青木バスターミナルでヤマト運輸のドライバーが受け取る。同ドライバーはこれまで上田市と青木村を1日3往復しなければならなかったが、これにより1日青木村に滞在することで再配達に対応でき、ドライバーの負担軽減と燃料の節約もできる。

長野県青木村(4400人)は、千曲バス、ヤマト運輸と連携して貨客混載バスの運行を始めた。

運 貨客混載バスの
運行を開始